

令和5年度 経営改革プラン

団体名	公益財団法人神戸市民文化振興財団	
設立年月日	昭和57年10月1日	
団体の設立目的・沿革	心の豊かさを内包した生活の質向上を求めようとする市民の幅広い多様な文化的欲求に対応し、神戸文化を育て、自由な発想にもとづく文化活動の豊かな展開をすすめるため、神戸市民文化振興財団を設立したものである。	
団体の主な事業内容	事業名	所管局
	神戸室内管弦楽団	文化スポーツ局文化交流課
	神戸市混声合唱団	文化スポーツ局文化交流課
	文化振興事業	文化スポーツ局文化交流課
	文化ホール指定管理	文化スポーツ局文化交流課
	文化センター指定管理	文化スポーツ局文化交流課
	新開地アートひろば指定管理	文化スポーツ局文化交流課
代表者	理事長 服部 孝司	

役職員数 (令和6年7月時点)	理事・評議員		監事		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	1	-	-	-		32	33
神戸市派遣職員	1	-	-	-		4	5
神戸市OB職員	1	-	-	-	3		4
その他	9	8	-	2	54	-	73
合計	12	8	-	2	57	36	115

財務状況(単位:百万円)	令和5年度	令和4年度	差引
経常損益	37	▲ 36	73
当期正味財産増減額	34	▲ 37	71
流動資産	406	502	▲ 96
流動負債	446	525	▲ 79
長期借入金(固定負債)	0	0	0
期末現金預金残高	190	358	▲ 168

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	自律した事業運営に向けた財政基盤の強化
ミッション②	神戸市民文化振興財団の強みとなる人材の育成強化・人材マネジメントの確立
ミッション③	市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上
ミッション④	指定管理施設における魅力的なサービス提供

■短期的なミッション（令和5年度のミッション）

ミッション①	多様な財源確保と財政基盤の強化
ミッション②	人材の育成・研修の充実
ミッション③	地域の文化芸術活動にかかる情報・知見の蓄積、及び、ネットワークの拡大
ミッション④	魅力的な自主事業の充実
ミッション⑤	指定管理施設のより魅力的な管理運営

■経営指標（令和5年度）

経営指標				令和4年度	令和5年度	前年度比増減
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	▲0.460	0.416	0.9ポイント
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	14.91%	15.17%	0.3ポイント
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	▲4.49%	4.81%	9.3ポイント
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	567.08%	714.20%	147.1ポイント
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	95.62%	91.01%	▲4.6ポイント
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	34.06%	40.45%	6.4ポイント
持続性	自己資本当期純利益率（ROE）	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているか。	▲13.51%	10.88%	24.4ポイント
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産)/当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	▲13.51%	10.88%	24.4ポイント

■ ミッション工程表

ミッション名		令和5年度			令和6年度			令和7年度～						
中長期的ミッション														
自律した事業運営に向けた財政基盤の強化	継続的な経費削減 及び官民他各種助成金の獲得強化、企業協賛金の獲得強化、有料観客数の増加など既存収入の増収対策													
神戸市民文化振興財団の強みとなる人材の育成強化・人材マネジメントの確立	固有職員のうち幹部候補生の育成 外部専門人材による人脈・経験の若手職員への継承 計画的な職員研修などによる専門性の高い人材の育成													
市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上	文化ホール開館50周年記念事業の実施 質の高い実演芸術の創造発信 「こうべ文化芸術相談窓口」等によるアーティスト支援と新規事業の創出													
指定管理施設における魅力的なサービス提供	指定管理施設間の連携 新開地アートひろばにおいて、あらゆる世代の交流に向けた事業促進	次期文化センター指定管理の指定獲得			次期文化ホール及び新・神戸文化ホール指定管理運営事業者の指定獲得									
ミッション名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
短期的ミッション														
多様な財源確保と財政基盤の強化	不断の検証 決算ヒアリング											決算・予算ヒアリング		
人材の育成・研修の充実	4月 新規採用者等研修 他館連携による自主事業を通じた制作力の強化	6月～3月 応対研修等			エアー～不思議な空の旅～			9月～12月 アートマネジメント研修			ジャズ大名			
地域の文化芸術活動にかかる情報・知見の蓄積、及び、ネットワークの拡大	「こうべ文化芸術相談窓口」・「KOBE C情報」・「アーティスト登録制度（仮称）」 施設情報の連携による情報蓄積・ネットワーク拡大													
魅力的な自主事業の充実	ガラ・コンサート 神戸JAZZ100周年事業の推進 ホールコンサート 質の高い実演芸術の実施							緑のテーブル2017		ハイドン：オラトリオ		ジャズ大名		ホールコンサート
指定管理施設のより魅力的な管理運営	新開地アートひろばにおける、新規事業促進、賑わいの創出 サービスの均質化及び向上にかかる取組み (例：文化センター共通のサービスのマニュアルの作成)													

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	<p>目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般正味財産が必要とされる充当額を毎年度下回らない。 ・ 助成金等の新規申請及び獲得 毎年度新規 1 件以上増 ・ 課長級以上に占める外部人材及び内部登用人材の比率 6 割 ・ C情報フォロワー数 1 万人以上 ・ 相談窓口利用者の発展的活動展開 利用者の70%以上 ・ 市民ネットモニターアンケート 過去 1 年間で芸術文化を鑑賞した人の割合 (絵画・音楽・演劇・映画・ダンスなど) 80%以上 ・ 企画・制作及び発信型事業年 1 演目以上実施 ・ 多文化共生を目指す自主・共催事業等 年 1 回以上
		・ 継続実施している事務事業の見直しについて、市の補助事業予算大幅削減に対応し更に強化
		・ 外部専門人材の積極登用やアートマネジメント研修事業の活用による財団運営強化及び専門性向上や人的ネットワーク拡大によるプロパー人材育成
		・ 掲載元 (主催者) と連携した C 情報の露出拡大及び各種イベント情報発信メディアとの連携強化
		・ こうべ文化芸術相談窓口を活用し、アーティスト等との連携強化
		・ 各文化センターにおけるイベントや短期の講座など気軽に芸術文化に触れられる機会の増加
		・ 幹部会及び拡大幹部会に加え、グループウェアの活用による幹部間コミュニケーション強化
	・ 50 周年事業など新・文化ホールに向けた先進的なプレ事業のための、早期体制確立と確実な事業推進	

■ 市支援策の活用状況 (令和 5 年度)

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input checked="" type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

（１）中長期的ミッションの達成状況

- ・自立した事業運営に向けて、外部助成金の獲得（新規助成金3件）など収入の多様化及び強化に取り組んだ。
- ・文化センターの講座事業について、諸物価の高騰等の社会経済状況に対応するため、受講料の改定を行った。
- ・文化芸術分野の経験豊富な財団職員自ら企画制作・発信型の公演を行ったほか、市民向けに外部講師を招いたアートマネジメント講座（参加者数133名）を開催し、学生等に加え財団職員も研修として参加するなど、職員の専門性の向上に取り組んだ。
- ・神戸文化ホール開館50周年記念事業として、「ジャズ大名」をはじめとする神戸が生み出した芸術家・舞台芸術作品や、神戸で活躍する芸術家等に焦点を当てた魅力的な自主事業を実施した。
- ・こうべ文化芸術相談窓口を通じてアーティスト等との連携（セミナーの開催や文化センターとの連携事業等）に取り組み、学びや交流機会の提供に加え、新たな活動機会の創出を図った。
- ・文化センターと文化ホールとの連携事業である市民の第九を実施したほか、令和5年度よりリニューアルオープンした新開地アートひろばにおいて、こどもから大人まで楽しむことが出来る事業を月替わりで実施した。

（２）短期的ミッションの達成状況

- ・決算見込みに基づき、幹部による事業収支の点検や役員ヒアリングを行う場を設けるとともに、幹部会において事業情報の共有や見直しについて協議した。
- ・幹部職員による決算概要・事業概要説明会や外部専門人材によるアートマネジメント講座に加え、短期国内派遣研修制度を改めて設ける等、様々な研修を実施した。
- ・こうべ文化芸術相談窓口を通じてアーティスト等との連携に取り組んだほか、KOBEMACHINAKAパフォーマンスの事務局として運営に携わり、学びや交流の機会の提供に加え、アーティストの新たな活動機会の創出につながる取り組みを行った。
- ・神戸文化ホール開館50周年記念事業として、「ジャズ大名」をはじめとする神戸が生み出した芸術家・舞台芸術作品や、神戸で活躍する芸術家等に焦点を当てた公演を実施したほか、神戸ジャズ100周年を記念し、文化ホールにてジャズコンサートを企画・実施するなど魅力的な自主事業を充実させた。
- ・新開地アートひろばにて親子向け事業を月替わりで実施し、賑わいの創出に寄与した。また、文化センターにおけるサービスの均質化・向上のため、対応マナー研修の実施や運営マニュアルの策定を行った。

(3) 市政への貢献・市民への還元状況

- ・文化ホール50周年記念事業をはじめとする、神戸のシティプロモーションやシビックプライドの浸透・醸成にもつながる質の高い神戸らしい事業の実施や、地域における芸術文化の振興に貢献した。
- ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団によるガラ・コンサートでは、神戸の文化資源・芸術活動へ焦点を当てた取り組みとして神戸の作曲家の作品を取り扱った。神戸・阪神間の児童が児童合唱団として出演したことで、TVニュースや各誌の批評でも取り上げられ、神戸の魅力発信に貢献した。
- ・こうべ文化芸術相談窓口を通じてアーティスト等との連携に取り組んだほか、KOBEまちなかパフォーマンスの事務局として運営に携わり、学びや交流の機会の提供に加え、アーティストの新たな活動機会の創出につながる取り組みを行った。
- ・新開地アートひろばにおいて、こどもから大人までが気軽に親しんで交流できる場を提供した。
- ・文化センター内にて中高生の学習スペースを設置。安価な受講料にてこども向け講座事業も実施した。
- ・0歳児から参加できるコンサートや、小学校を対象にしたインリーチ・アウトリーチ事業、視覚障がい者との協働事業など、年齢や障がいを超えて文化芸術に親しんでいただける取り組みを行った。

■外郭団体マネジメント推進本部の評価

(1) 総合的意見

財政基盤の改善や人材育成の取り組みに加え、50周年記念事業やニューあそび場の創造事業等魅力的な事業を実施し、市民の文化振興に貢献している。特に、新開地アートひろばでのアートを介した親子の居場所づくり等子どもや障がいのある方に向けた事業について、高く評価する。

一方、財政基盤の改善にあたっては、外部助成金の獲得に加え、企業協賛の獲得や集客数の向上にも努めること。また、「KOBE C情報」のフォロワー・アクセス数については、目標達成の進捗に遅れが生じているため、取組内容を見直すこと。

(2) 数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	<p>「自律した事業運営に向けた財政基盤の強化」と「神戸市民文化振興財団の強みとなる人材の育成強化・人材マネジメントの確立」に向けた取り組みを継続して行っている。</p> <p>「市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上」については、50周年事業をはじめ、市民の文化振興に資する魅力ある事業の企画に取り組んでいる。</p> <p>「指定管理施設における魅力的なサービス提供指定管理施設」においては、マニュアルの整備や研修の開催など、市民サービスの向上に向けた取り組みを行っている。</p>
短期的ミッション	<p>「多様な財源確保と財政基盤の強化自律した事業運営」に向け、助成金の獲得や経費削減等の財政基盤の強化に取り組んだことで、令和5年度の収支差額はプラスに転じた。</p> <p>「人材の育成・研修の充実」を目指し、財団内外問わず多様な研修を実施した。「魅力的な自主事業の充実」に向け、50周年記念事業やニューあそび場の創造事業等数多くの事業を実施している。</p> <p>「地域の文化芸術活動にかかる情報・知見の蓄積、及び、ネットワークの拡大」に寄与する「KOBE C情報」のフォロワー・アクセス数については、増加が平年並みであり、今後の改善が必要である。</p>
団体目標の達成状況	<p>下記の項目が未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「KOBE C情報」フォロワー数1万人以上 ・相談窓口利用者の発展的活動展開 利用者の70%以上
市への貢献・市民への還元状況	<p>市民の文化振興への貢献及び、子どもや障がいのある方に向けた取り組みを強化している。今後は、さらなる財政基盤の改善に向け、実施事業の集客数向上を図っていくこと。</p>

(3) 今後の方向性

- 団体の存廃も含めた検討を要する団体
 継続的な見直しを要する団体
 取り組みが着実に実施され成果が上がっている団体